

# まるこやま

第69号

令和3年9月20日

〒699-1251  
雲南市大東町大東2419-1  
大東交流センター  
TEL(0854)43-2130



E-mail: daito-c@hotmail.yoitoko.jp  
http://user.yoitoko.jp/daito-c/

大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会



阿用小学校 稲刈り体験学習

例年より随分と早い梅雨入り、  
その後の記録的な猛暑や豪雨、  
今年の夏は異常気象の日々でした。  
それでも自然の恵みを受けて  
たわわに実った稲穂が黄金色に輝き、  
収穫の時期を迎えました。





# 自治会長会を開催し、7月の豪雨対応をふり返りました。

線状降水帯が  
わずか10km  
ずれていたら...

赤川上流、あるいは  
清田川・阿用川上流を  
豪雨が襲っていたら...

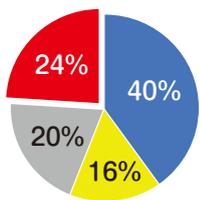


**！ 連坦地への浸水、周辺部の土砂災害は容易に想像できます！**

豪雨や地震など、大規模自然災害が各地で発生しています。被害を大きくしない決め手は、「自分たちのまちと人を守る体制」の有無です。

8月20日に急きょ自治会長会が開催されました。警戒レベル5までも発令された日がありました。幸い、人的被害はありませんでしたが、他人事にはしておけない昨今の情勢です。

## 自治会長会事前アンケート結果



警戒レベル5が発令された7月12日、貴自治会住民の安全確保の確認をしましたか？

- 全戸を対象に確認した
- 「要支援者」について確認した
- その他
- いいえ

- 防災委員→自治会長→班長→各戸確認した
- 要支援者宅を訪問した
- 一人住まいの世帯の確認をした 他
- 市外にいて様子がつかめなかった
- 連絡網が不徹底で夜になって連絡がついた 他



貴自治会では具体的な防災ルールが作成されていますか？  
(誰が、どのように行動するのか等)

- はい
- 策定中
- いいえ

- 自主防災会を組織し、活動計画も策定済み
- 自治会長と防災委員が相談する
- 一時的な避難場所として公会所を開ける
- 平常時の研修体制などはできているが、非常時の体制はできていない 他

自治会活動を基にした地区の自主防災組織の体制を確立・強化し、災害に強い大東のまちづくりを推進しましょう。また、地域のコミュニケーションの活性化を図りため、日頃のあいさつ運動も推進していきましょう。

にがおえで  
こんにちは！

## 仲間とスポーツ

大東ジュニアフットボールクラブ  
代表 横山 武志



(絵：大東町東町北 細田 滋)

東京オリンピック・パラリンピックが終わりました。様々な競技がある中、スケートボードやパラスポーツに、スポーツ本来の姿を感じましたが、皆さんはどうでしたか？

十代の若い選手たちが表彰台に上がったスケートボードで、何よりも素晴らしいなと感じた

のは、一人一人が語る飾らない言葉や一緒にプレーした選手への声援でした。そこには特別な舞台での勝利ではなく、同じスポーツをする仲間と、楽しみながらパフォーマンスを追求する姿があり、ほかのスポーツにも浸透して欲しいと感じました。

パラリンピックは、それぞれが一つの競技として確立していました。障がいや年齢も関係なく楽しみながら勝利を目指す姿を観て、パラリン

ピックという言葉は無くなってもいいのでは…と感じました。

小学生以下のサッカークラブである大東JFCには、四歳児から小学六年生まで約45名の仲間が活動しています。松江市や奥出雲町からの参加もあり、ボランティア活動として中学生も活動しています。

育成年代の子もたちにミスや失敗はありません。すべてが素晴らしい経験となり、成長へと繋がるよう、私たち指導者はアップデートを続けています。

試合に勝ったとか負けたとかではなく、スポーツ本来の意味である『楽しさ』を伝え、「失敗してもいい」「やり直せばいい」という安心安全な環境の中、主役である子どもたちが自ら考えて行動出来、仲間と助け合ってプレーできるようになることが、大東JFCの大切にしているところです。



# パナリ 掲示板

Photo bulletin board



「迎え盆」にはきゅうりを足の速い馬に見立てた「精霊馬」、「送り盆」にはなすを足の遅い牛に見立てた「精霊牛」。ご先祖様にはこの世でのお盆をゆっくりお過ごしくございました。



大木原の難波和吉さん宅で幸運をもたらすソテツの花が10年ぶりに咲きました。卒寿を迎え、縁起が良いと大喜びです。



大東高校



第4回 織部祭

DASH 今青春が走り出す



上町七夕祭

来年こそは、今年新たに製作した宮飾台車を先頭に大東七夕祭を盛り上げます。



## なんでも スマホ活用相談会

日時 10月25日(月) 午前9時00分~12時

11月22日(月) 午前9時00分~12時

会場 大東地域交流センター第2会議室

相談時間 1人 30分以内

申込締切 各月 開催日1週間前

講師 (株)オフィスN 岩田夏井氏

相談料 無料!

※ 個別相談が原則 (3人程度の小グループも可)

スマホを活用し、公的サービス、民間サービスなどが「いつでも」「どこでも」「手軽に」受けられる時代となりました。雲南市では各交流センターと連携して、スマホ活用技能の習得のための相談会が随時開催されます。



大東地区の方は気軽に 大東交流センター (43-2130) まで申込みください。

## 令和3年8月末現在の人口・世帯数 ( )内は対前々月比

項目	雲南市	大東町	大東地区
総人口	36,609人 (-87人)	11,702人 (-17人)	3,445人 (-12人)
男性	17,674人 (-33人)	5,707人 (-8人)	1,660人 (-9人)
女性	18,935人 (-54人)	5,995人 (-9人)	1,785人 (-3人)
世帯数	13,673世帯 (-24世帯)	4,147世帯 (+1世帯)	1,270世帯 (-1世帯)
高齢化率	39.79% (+0.04%)	39.60% (+0.07%)	—

資料：雲南市HPより



## ご寄付に感謝致します

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただいております。

- ・大東町 (新庄東) 狩野 保 様 (香典返し)
- ・大東町 (新庄南) 佐藤 吉之 様 (香典返し)
- ・大東町 (中 町) 山本 亮 様 (香典返し)

大東地区振興あいあい募金運営委員会 (TEL: 43-2130)

# 島根大学のフィールドワーク授業が大東町で開講！



8月6日（金）～12日（木）の7日間、大東町にある島根大学フィールドステーションを拠点に、島根大学の授業（授業運営：一般社団法人Community Careers）を開講し、所属学部学科・学年の違う7名が参加しました。授業では、地域の方のお話を聞いたり地域を散策し、大東町のイイトコを毎日探しました。さらに、地域の方から聞いた課題に対して、発見したイイトコを活用したアイデアの提案を行いました。  
※プログラム中、十分なコロナ感染対策を行なった上で実施しております。



## 島根大学雲南フィールドステーションとは…？

2018年6月に開設された、島根県雲南市大東町に地域貢献や地域課題解決のための教育・研究を行うために、島根大学の教職員及び学生が、地域の方々と協力し地域活性化の要として活躍する拠点



1

### 地域を散策

大東町を知るために、地域を歩いたり、15名の地域の方にお話をいただきました。



2

### イイトコの発見

毎日地域のイイトコを探し、地域資源の発掘を行いました。また、その地域資源の活用方法について話し合いました。



3

### アイデアの提案

地域の方から伺った課題に対して、発見した地域のイイトコ（地域資源）を活用したアイデアの提案を行いました。



## 活動中の様子

地域の方に拠点にお越しいただいたり、大東町内を散策してお話を伺うなどして、地域の魅力を発見できました！

▼雲南市観光ガイド 上代昇 様



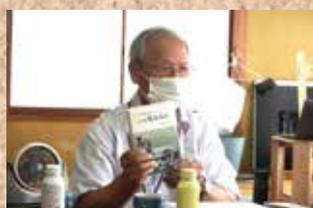
▼地域運動指導員 藤原陽子 様、細川美佐江 様



▼赤川ほたる保存会会長 松田勉 様  
塩田交流センター主事 内藤伸夫 様



▼雲南市遺族会会長 難波幸夫 様



▼(社)みかた麴杜舎 佐佐木瑠美子 様



▼古代鉄歌謡館長 高橋勲 様



# ありがとう大東町！

授業期間中お話をしてくださった15名の皆様や、地区散策中に声をかけてくださった皆様、本当にありがとうございました。おかげさまで、地域について知ることができるだけでなく、人の温かさに触れる授業となりました。

私が、今回の授業で、地域の方々と関わって印象に残っていることは「愛」です。大東町のいいところは、熱意を持っている人がたくさんいることだと私は思います。例えば、七夕まつりや河津桜、大東でしかできない教育など、熱意を向けていることは一人一人違うけれど、それがいい味を出して、地域全体のいいところにつながっていると感じました。この熱意が伝播し、地域に対する愛を育んでいるのではないかと思います。私もみなさんのように、熱意を待ち、地域を愛する人間になりたいと思えました。7日という短い期間でしたが、とても素敵な時間を過ごさせていただきました。大東町のみなさん、本当にありがとうございました。（内藤）



地域の方々と関わって、一番印象に残ったのは「繋がり」です。大東町の人口は少ないからこそ、人との繋がりが強いと思いました。情報の伝達速度は非常に速く、他者へ関心を向けていることも素晴らしいです。いろんなイベントを作って地域の学生も参加できるように考えていたり、1人暮らしの高齢者に弁当を手渡し健康確認するのはとてもよいと感じました。一番感動したのは雲南市遺族会会長の難波さんとの日中関係についてです。実は、日中戦争の話題について日本人と話すのはこれが初めてです。難波さんは前向きな姿勢で、積極的に中国と交流する様子を見て、平和の貴重さを感じられました。これからも、平和の生活に感謝の気持ち、そして他者への愛で生きようと頑張ります！（楊）



私が地域の方々と関わって印象に残っているのは、地域の方々の課題意識の高さです。話を伺う中で心を揺さぶられることが何度もあり、これほど本気でこの状況をどうにかしたい、私も何か力になりたいと思えたのは初めてでした。私が思う大東町のいいところは、自然の豊かさや、コウノトリやホタルを始めとした多様な生物との共生のための努力です。その地とともに生きるという精神が非常に素敵だと感じました。この講義の中で、たくさんの方が私達に「行動する」チャンスを与えてくださり、背中を押してくださったと感じています。今回の講義で終わりにするのではなく、これからは自分で行動を起こしていこうと思います。大東町の皆様、本当にありがとうございました。（塚本）



7日間の演習を通して、地域の方々と関わり、いいところ沢山発見しました。一番印象に残ったのは「心の若さ」です。大東町の若者が少ないとは言え、雰囲気として気楽で前向きだと感じました。人々の気持ちでも、七夕祭りやサロンなどのイベントでも、このような町雰囲気が出来てるのはとても有難いと思います。その地元愛と活気で、町づくりにやる気が上がり、チームワークへの参加も積極になった経験ができました。これからもその時の熱い気持ちを忘れずに身近な人を大切にしたいと思います。短い間、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。大東町の皆さんと交流できて良かったと思います。色々ありがとうございました！（燕）



地域の方々と関わって印象に残っていることは、自分の住んでいる地域を誇りに思い、そのいいところを伝えようと熱意を持って活動していられる方が多いことです。私は大東地区や春殖地区について今までよく知りませんでした。すごく素敵な地域だということ友達に話したくなるぐらい、7日間でたくさん魅力を知ることができました。それぐらいたくさんいいところがあること、何より地域を愛して、いいところを伝えようという熱意を持っている方が多いことが大東地区や春殖地区のいいところだと感じました。大東地区や春殖地区の皆さんと関わらせていただいて、熱意は伝播することや、熱意や愛を持って行動することの大切さを実感しました。私も授業をはじめ、これから様々な活動をする場面で熱意と愛を持って取り組むことを心がけたいと思います。貴重な経験をさせてくださり、本当にありがとうございました。（松原）



地域の皆さんが地元を誇りに思っていることを、私たち学生に伝えようとしている姿がとても印象的でした。私は今まで自分の地元が1番いい！と思っていましたが、他の地域の方に地元の良さを具体的に伝える事はできませんでした。皆さんが他地域から来た私たち大学生に「分かりやすいように」と用意してくださった資料や説明を通して、本当に心の底から地元を愛しているのだと感じました。私たち学生目線でみた大東町の良いところは、とにかく地域の皆さんが温かい心を持たれているところです。大東町の良さを肌で感じるために、実際に歩いて地域の方に話しかけた人がいました。その時は「大東町の良さを上手く伝えられない…」と申し訳なさそうに答えてくださった人が、後に私たちを追いかけおすすめの場所を教えてくださいました。学生と接する際に、全くもってよそもの扱いせず受け入れてくださり、私たちがより深く地域のことを知り、よりよい学びができるようお話ししてくださった姿を見て本当に温かい心をもった方ばかりの地域だなと感じました。本当にありがとうございます。これで終わりではなく、また雲南市に前よりも成長した自分で戻りたいと思います。（柳田）



## 島根大学地域未来協創本部 准教授 丸山 実子

2021年8月上旬真夏日の中、「中山間地域フィールド演習」（講義：丸山実子）を雲南市大東地区で実施させていただきました。実施にあたり皆様には大変お世話になりました。本授業は、中山間地域（島根県雲南市）において、地域の方々と共に、新たな課題解決に挑戦し、地域の未来を自らが切り拓き、提案・実践していくことができる力を養うことを目的としています。現地講師は、一般社団法人Community Careersの山下実里さんにお願ひし、学生を伴走して頂くだけでなく地域の皆様とのきっかけを構築して頂きました。昨今、「課題解決型」の授業は多く実施されている教育方法のひとつですが、単に改善を課題として提示するのではなく、「良いところ（イイトコ）」を発見し、それらを抽出していく中で、地域に起きている課題を解決する手法を取り入れました。単に事柄をポスターやパワーポイントにまとめるだけでなく、最終日に公民館をお借りして皆様の前で完成した提案を口頭発表させて頂く機会がありたかったです。授業後の学生の感想はここにも掲載されているとおり、胸いっぱいの大満足です。大切なのはここからだと私は考えます。「再会すること」です。今後も学生がお世話になりますので宜しくお願い致します。



## まなびの泉

### 「コロナ禍の七夕さん」

雲南市立大東保育園長 佐藤 幸子

「テンテコテンの七夕さん」のお囃子も、2年途絶えてしまいました。

七夕祭りはありませんでしたが、大東保育園では今年も6月から8月6日の行列の日まで『北町西瓜提灯作りの会』の皆さんと交流を深め、温かい地域愛に触れることができました。

祭りの賑やかさはありませんが、北町西瓜提灯作りの会の皆さんから「西瓜提灯は子どもたちの成長と平和を願うためなんだよ。」と由来を聞き、太鼓の叩き方やお囃子を教えていただきました。七夕行列に込められた地域の願いを子どもたちに引き継ぐことができ、感謝の思いでいっぱいです。七夕行列の後、担任が出したクラス便りを少しご紹介します。

6月に北町西瓜提灯作りの会の方へ西瓜提灯の張り替え作業をお願いし、7月にみんなで願い事を思いながら塗作業をしました。「コロナが早く収まりますように。」「みんなが元気に大きくなりますように。」「コロナが終わったら温泉に行きたいな〜。」など、子どもたちは丁寧に、そして心を込めて塗っていましたよ。何のためにするのかきちんと伝えることは大切ですね。当日はとても暑い日となりましたが、頑張って西瓜提灯神輿

を担いで北町公民館まで行って帰ることができました。また園に帰ってからは、ばなな組さんと一緒に園庭を行列することもできました。

来年はばなな組さんがめろん組になってこの西瓜提灯・七夕行列をするので、来年を楽しみにできるように「次はばななさんよろしくね。」とめろん組から西瓜提灯を手渡しました。こうして、めろん組の西瓜提灯の活動が次の子どもたちへ受け継がれていきます。

コロナ禍ですが、コロナ禍だからこそ、今年の大東保育園のキーワードは“つながる”を掲げています。まずは職員同士、そして子どもたち、保護者、地域の方とも心をつなげ、大切なものを引き継いでいきたいですね。



## 絵本「うんなんのいいところ みいつけた!」が完成しました

大東高校3年 加武 美咲(大東町新庄)



雲南市には、チャレンジを支援する「雲南スペシャルチャレンジ」という制度があり、私はその制度を利用して雲南市の魅力伝える絵本作りを始めました。高校陸上部に所属する自分を主人公に見立てて、雲南市内をジョギングしながら「うんなんのいいところを見つけていくストーリーです。」1年がかりの活動を通して、多くの人に助けをもらい、たくさんの経験をしたことで自分自身を大きく成長させることができました。また、雲南市のことを深く学び、魅力を再確認することができました。

少子高齢化が進み、雲南市から県外へ出ていく人が増えている中で、この絵本を読んだ子どもたちが少しでも雲南市の良さを感じ、住み続けていきたいと思ってくれたら嬉しいです。また、1ターナーや県外在住の方にとってこの絵本が雲南市のことを知っていただくきっかけとなれば幸いです。

大東・加茂・木次の図書館で貸出可能です。

## 全国からのお便り



### 古里のDNA

松江市在住  
山陰中央新報シニア記者  
山根 行雄(神田町出身69才)

仕事柄、さまざまな人と出会う。稀(まれ)に大東町出身の方と巡り会うことも。印象深い同郷の二人を紹介したい。

大東高校OBの青木繁之さん(公益財団法人献血供給事業団の元理事長)は、学生時代、身を投げ出して売血の実態を世に問い、時の政府を動かして、1974(昭和49)年の献血100%体制確立へと導いた「献血の生みの親」。三十数年前、日本赤十字社島根県支部の一室で数時間にわたって聞き取った一言一言が今も甦る。

町内の商家に生まれ、自治医科大学に進んだ狩野稔久さんは、益田地域医療センター医師会病院長。傾いた病院経営の再建に手腕を振るい、益田

圏域の地域医療を守り抜く。ひよんなことから酒を酌み交わし、今も助言を請うことが多い。

同郷の二人には共通点がある。気さくさと慎み深さを兼ね備え、何よりも内に秘めたパッション(情熱)は半端でない。秀でた大東出身者に宿るDNAなのだろう。

時々、チャリンコにまたがり丸子山にほど近い霊園へ。終戦の翌年、異国の地の捕虜収容所で戦病死した叔父や先祖が眠る墓地から一望できる町並みは、いつ見ても心を癒やされる。お盆前の盛夏、ヤブ蚊にかまれながら亡き父と墓石の戒名に墨入れした少年時代を思い出してしまう。

古希が近い。米子市内の職場で若手と筆を競うには、いささか馬齢を重ねすぎたが、新たな出会いは萎えた気持ちを奮い立たせる。往生際の悪い生き方。私が唯一、引き継ぐ古里のDNAかもしれない。



### 「まるこやま広報紙」 心待ちにしています

福岡市西区在住  
山本 友信(織部出身73才)

秋冷のみぎり、大東の皆様にはますますご壮健のこととお慶び申し上げます。私は博多に住んで50年余り。今では15人の家族に恵まれ、幸せな日々を送っています。

さて、「まるこやま広報紙」にかつて寄稿したご縁でこの広報紙を毎号送っていただき、ページをめくるたびに大東の情景が思い出されます。感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。

たとえば、8月になると七夕で西瓜提灯のロウソクから出火して笹竹を焼いたこと、当日の大雨で行列が中止となり、母の膝の上で号泣したことなどが脳裏に浮かびます。

この度、お礼にあわせて、今でも大切にしている大東のなつかしい写真を紹介させていただきます。

す。これからもよろしく願いいたします。



昭和10年頃の写真だと思います。赤川に架かる勝田橋上流にある荊屋垣堰(かりやがきぜき)の修復工事写真です。

丸子山の桜も満開です。大東の町家(北町)もほとんど平屋でワラぶき屋根です。中央左のモッコを担いだ二人組のうち前方が私の父、正一と聞いています。



## 本町スポーツ振興会の活動

本町 中井美佐子

本町のスポーツ振興会は、S40年代に本町独自で運動会を行ったのが始まりです。

バスを貸し切って春・秋には近隣の広島や鳥取の登山をしたり、夏には子どもから大人まで大勢の参加で海水浴に行ったりしました。その際には弁当を持参して昼食を取り、行事の後には反省会と称して温泉に入って飲み会を行い、楽しくおしゃべりをして散会となるのが常でした。

しかし最近子どもさんの姿は全くなく、大人だけの町となりました。高齢化とコロナ禍の時代となりイベントが縮小されていく中、「加多神社への初詣」と「歩け運動」だけは現在も継続して行っています。「歩け運動」は週2回、町の中を1周しており、7～8人が参加しています。

今後もこれらの活動が継続され、若い方の参加が増えて明るく元気な町になることを望んでいます。



平成11年9月19日 中蒜山頂上にて



ささき だいすけ

### 佐々木大介さん (新庄南自治会)

高校まで大東の自宅から通い、大学は寮生活。親元を離れ初めて家族の有難さを知り「卒業したら家族を喜ばせたい、喜ぶ顔が見たい。」と一念発起。平成生まれの25才。若者には珍しい野菜作りに挑戦中の佐々木大介さんに話を聞きました。

#### Q 子どもの時代と農業を始めた動機を聞かせてください。

祖父母について野菜仕事、特に畑仕事によくついていきそばで遊んでいました。初めて手伝った種まきが楽しくて農作業に興味がわき、家の中より外で遊ぶ方が多かったですね。5・6年生の頃には、種まきから野菜を栽培する程、農業が好きになっていました。野菜が大きく成長し家族で食べる。自分が作ったものを「おいしい！」と褒めてくれる。自然にモノを大切に、モノを可愛がる気持ちが育ってきたと思います。また、汗をかいた後の快感も忘れられなかったですね。

自然の中で野菜を作る。家族だけでなくもっと多くの人に食べてもらいたい。その思いがだんだん強くなってきて「農業を将来の仕事に」と思うようになりました。

#### Q 中学生から高校、大学、そして槻之屋ヒーリングへ就職しましたね。

中学生の頃はパソコン部に入部していたが進路に悩み、高校では、図書室で就農のための本を読み勉強、その努力が実り島根県立農林大学校に進学、2年間専門知識を修得し、卒論は「いちご」について取り上げました。就職先も色々あったが農業振興センターの紹介もあり、興味があった(農)槻之屋ヒーリングに就職、現在に至っています。毎日本次町湯村まで通っています。夏は朝5時頃に家を出ることもあります。今はスタッフ6人です。野菜の少量多品目栽培に取り組んでいます。

#### Q 農業の面白さ、辛さを教えてください。

野菜を育てながら話しかけます。「大きくなれよ！病気せずうまい野菜になってね。」と、野菜はものは云わないけど不思議と立派に成長してくれます。野菜にも「以心伝心」という言葉があるんですね。辛いのは、折角手塩にかけた野菜が病気になったり、害虫・鳥獣被害に会うことです。この頃では猿も出るようになり、新しい対策も必要となってきました。そうして苦労して作った野菜が皆さんに喜んで食べてもらえることが一番の喜びであり、達成感と充実感を味わえる時です。

#### Q 将来の目標は何ですか。

槻之屋ヒーリングのことをもっと多くの人に知ってもらいたい。今の規模をもっと大きくし、多くの野菜を多くの人に提供したい。そんなことを思っています。経験を積み、いずれは地元での営農も…。

取材中も眼鏡の奥で優しい眼差しが光ります。幼い頃のおじいさんおばあさんとの畑での思い出が大人になっても忘れられず、「おいしい野菜作り」に懸命に取り組めます。額に汗し、土にまみれ、自然とも共存。収穫した野菜を抱えるその腕に将来の夢が膨らみます。野菜作りは先ず土づくりから……とも。 明るい笑顔とともに青年の挑戦が続きます。(記、西村 武)